

平成31年3月7日

各位

会社名 株式会社マネーパートナーズグループ
 代表者名 代表取締役社長 奥山 泰全
 (コード番号: 8732 東証第一部)
 問合せ先 取締役 C F O 中西 典彦
 (TEL. 03-4540-3804)

平成31年2月次 月次概況（速報）のお知らせ

平成31年2月次の当社グループの月次概況（連結ベース）を下記のとおりお知らせいたします。なお、営業収益及び外国為替取引預り証拠金は速報値であるため、決算発表時の数値と異なる場合があります。

記

年 月	平成30年3月期											
	平成29年									平成30年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業収益 (単位:百万円)	469	488	449	404	489	539	483	482	607	552	499	562
外国為替取引高 (単位:百万通貨単位)	63,192	72,786	82,184	88,166	117,248	143,437	115,410	122,896	81,853	142,982	164,784	129,679
外国為替取引口座数 (単位:口座)	298,467	300,139	301,557	303,106	304,509	306,001	307,465	308,647	309,873	311,645	313,167	314,547
外国為替取引預り証拠金 (単位:百万円)	59,995	61,529	62,091	62,774	63,253	64,734	63,512	61,675	61,378	62,789	62,309	61,758
一般顧客	50,108	50,819	51,353	52,431	53,410	54,057	55,014	55,820	55,367	57,073	57,628	56,966
金融法人 (B to B)	9,886	10,709	10,737	10,342	9,843	10,676	8,498	5,854	6,010	5,716	4,680	4,792
マネパカード口座数 (単位:口座)	77,503	81,189	85,019	90,702	97,327	101,409	104,187	107,082	110,964	116,830	119,853	122,719

年 月	平成31年3月期											
	平成30年									平成31年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業収益 (単位:百万円)	536	519	478	439	670	606	476	435	547	460	360	
外国為替取引高 (単位:百万通貨単位)	91,552	116,599	101,591	92,238	107,310	84,706	118,371	96,598	91,536	133,017	75,614	
外国為替取引口座数 (単位:口座)	315,872	317,341	318,698	319,983	321,275	322,271	323,931	325,232	326,421	327,859	329,061	
外国為替取引預り証拠金 (単位:百万円)	62,379	61,817	63,050	63,736	62,506	62,707	62,428	62,361	63,000	62,097	61,685	
一般顧客	57,653	57,015	57,840	58,372	57,290	57,094	57,455	57,530	57,897	57,128	56,678	
金融法人 (B to B)	4,725	4,802	5,209	5,363	5,216	5,613	4,973	4,831	5,103	4,968	5,006	
マネパカード口座数 (単位:口座)	124,965	129,820	134,553	137,762	139,807	141,535	143,219	144,889	146,856	148,845	150,323	

- (注) 1. 外国為替取引高は、顧客との相対取引による通貨毎の取引高を原通貨単位のまま合計したものであり、円換算は行っておりません。
2. 外国為替取引口座数、マネパカード口座数及び外国為替取引預り証拠金は、それぞれ月末時点の口座数及び残高であります。
3. 平成23年8月より差金決済取引 (CFD) の取扱いを開始しており、CFDにおける預り証拠金、取引高（原取引単位を米ドルに換算）及びこれに伴うトレーディング収益はそれぞれ「外国為替取引預り証拠金」、「外国為替取引高」及び「営業収益」に含めて表示しております。
4. 外国為替取引預り証拠金は、一般顧客からの取引によるものとB to B取引先である金融法人からの取引によるものを区分して表示しております。

< 2月次の概況 >

2月の外国為替相場は、米ドル／円については、1ドル＝108円台後半で取引が始まり、直後に月の安値となる108円台後半をつけた後、良好な米国経済指標を背景に緩やかなドル高円安の流れとなり、4日には110円台前半まで値を上げました。その後は、トランプ大統領の米中通商問題や政府機関閉鎖を回避する発言から警戒感が緩和され、13日には111円台前半まで値を上げたものの、14日には米国12月小売売上高が予想より大きく下回ったことから110円台半ばまで値を下げるなど、月末にかけて110円台半ばから111円台前半の非常に狭い範囲で推移し、最終日に月の高値となる111円台半ばをつけて月末を迎えました。一方、米ドル／円以外の主要な取扱い通貨である欧州・オセアニア通貨についても、米ドル／円と同様に緩やかな円安方向で推移し、全体としての変動率は、米ドル／円をはじめユーロ／円や豪ドル／円等主要な通貨ペアで月間の高値・安値の値幅が3円未満となる等、極めて低い水準となりました。

このような状況の中、外国為替取引高は、米ドル／円を中心に変動率が大きく低下したことに加え、営業日数が20営業日と前月と比べて減少したこともあり、全体としては前月比43%減少の756億通貨単位となりました。一方、営業収益は、取引高の減少に加えて、前月、前々月と高い水準であったシステム子会社によるシステム開発関連売上の反動減もありましたが、相対的に収益性の低い米ドル／円の割合が減少する等により全体としての収益性が高まったことから360百万円と前月比22%の減少にとどまりました。また、顧客基盤については、外国為替取引口座数は前月比1,202口座増加の329,061口座、マネパカード口座数は前月比1,478口座増加の150,323口座と低迷する外国為替相場を反映して増加ペースが鈍化した一方、外国為替取引預り証拠金は、円安方向の相場推移に伴い顧客の含み損益が改善したことによる余力資金の出金増加等により、前月比411百万円減少の61,685百万円となりました。

以 上